校長室だより～燦燦～ №８０５

夏休み

2023.7.29

夏休み、この言葉の響きがよい。何だかほっとするし、ワクワク感もある。楽しいことが待っているという期待感をもった言葉である。教員になってから、３０回以上の夏休みを経験してきた。毎年のことだが、６月に入ると、少しずつ夏休みのことを考え始めていた。

若い頃は、本を何冊読むとか、何々の研修会に参加するとか、よく考えていた。大村はま先生の書籍を数冊読んだ夏もあった。それなりに、目標は立てるのだが、その通りにできたことは一度もない。これは、中学生のときからずっと変わらない。

仕事に関わることになると、こうなのだが、それ以外のことになると、実行率、達成率は高くなる。部活動に燃える、旅行に行く、部屋を片付けるなどである。６月くらいから旅行の計画を立てるのは楽しい。そのためには、休みが取れる期間がわかっていなければならない。

中には、７月の県大会が終わり、８月の東北大会、全国大会と続き、気がつけば２学期が始まっていたという夏もあった。選手をいろいろな所に連れて行った。やれることはすべてやろうと思った。その結果、夏休みなのだが、休みはなかった。全国大会常連の指導者は、毎年、このような夏休みを送っているのだろうか。

憂鬱な夏もあった。夏休み明けに学習指導案を提出した夏、夏休み明けに実践資料を提出しなければならない夏、要するに宿題がある夏である。宿題は、子どもも大人も嫌なのである。夏休みに学習指導案を作成する。これが、いいようでよくない。たっぷり時間があるからといって、いいものができるわけでもない。せっかくの１か月間を、ずっと気分が晴れない状態で過ごすことになる。実に、もったいない。ワクワクか憂鬱かは別として、今までの夏休みにはメインがあった。

ここ数年は、ワクワクする夏休みにはなっていない。６月に入っても、夏休みのプランを立てることもない。コロナもあり、旅行に行っている場合ではない。家人の休みの見通しが立たない。その結果、お盆に息子と娘が帰省し、一緒に過ごす。実家に行く。こうなる。

何とも地味な過ごし方である。それでも、「校長室だより～燦燦～」の原稿作成と、少しばかりの読書は続けている。結局、普段の週末の過ごし方とさほど変わらない。ただし、オフの状態が長いため、発想は次から次へと出てくる。その度に、スマホに記録する。

教員にとって、夏休みに入ったからといって、すぐに休めるわけではない。７月下旬までは、何だかんだとある。提出物もある。中学３年生の先生方は、三者面談もあるだろう。そろそろ多くの先生方にとっての本当の夏休みが始まる。それぞれに計画があり、目標もあるだろう。ぜひ、有意義な充実した夏休みになることを願っている。私はというと、今年もノープランである。それでも、自分なりに意義のある時間にしたいと思っている。